

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190100941		
法人名	株式会社創生事業団		
事業所名	グッドケア・大通西(すずらん館)		
所在地	札幌市中央区大通西12丁目4番地64		
自己評価作成日	令和4年3月6日	評価結果市町村受理日	令和4年5月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100941-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和4年3月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市内の中心部に位置し、人々の行き交う光景が毎日見られる中で日常を送られています。コロナ禍で家族様も自由に会えない寂しさをお持ちになりますが、家族と窓越しに寄り添っている光景がみられております。日々の生活の中で、四季の変化を感じながら、職員は信頼関係を築けるよう笑顔を大切に、入居者様へのサービスを提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市の中心部に位置し、市営地下鉄「西11丁目」駅から約150mと交通の便が良く、大通公園に面した鉄筋コンクリート7階建てビルの2階・3階にある2ユニットのグループホームで、4階～7階はサービス付き高齢者住宅となっている。法人は多くの介護事業所を運営し、情報交換や事例を共有しながら、質の高いケアを心がけている。居間・食堂は一体的で、温・湿度は適正に調整され、季節に合わせて母の日にはカーネーションを飾ったり、七夕には短冊を飾り、利用者の写真を飾るなど家庭的な雰囲気となっている。建物が大通公園に面しているため居間の大きな窓からは公園を歩き交う人々、散歩する人、ベンチで休んでいる人、樹木や花などから季節の移り変わりを感じることが出来る。玄関脇には花壇があり、花々が咲き心をなごませる。職員は利用者個々の健康状態を把握して、体操や歌を歌うなど、無理強いないようにして、機能訓練や「自発性」を引き出すケアに努めている。利用者はテレビを見たり、新聞を読んだり、レクリエーションをするなど、思い思いにゆったりと和やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体、事業所ごとの理念をフロア内に掲げていて、職員は常に理念を心にとめて業務に取り組んでおり職員が相談して作った理念を意識しながら業務に取り組んでいる。	事業所理念、法人の理念を各フロアに掲示し、職員で共有しケアに繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍になり近隣との交流は少なくなってきているが、札幌市に定期的に報告している入居状況についての問い合わせなどを通して継続していきたい。	今までは町内会に加入していなかったが、今年2月から地域の一員として町内会に加入した。今後は交流に努めて行きたい。(コロナ禍のため行事等は行われていない。)保育所が近くにあり、利用者は子どもたちが大通公園で遊ぶ姿を窓から眺め互いに手をふり合うなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こちらから発信する機会は持っていないが、入居相談の電話などがあれば、現状をお伝えしながらサービスの助言を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍になり運営推進会議は行っていないが、今後行える時にはサービス向上に生かせるよう取り組んでいきたいです。	コロナ禍により2か月に1回書面会議を開催し、活動報告などを関係者に知らせて、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の介護保険福祉課担当者との入退去情報の報告、コロナワクチン接種においては接種の状況報告を行っている。地域包括支援センターの方と個別のケースの相談を行ったり、認定更新時には、利用者の暮らしぶりや具体的なニーズを伝え、連携を深めている。	市担当者とは運営状況の報告をしたり、コロナ関係の状況を報告したり、指導・助言を得ている。地域包括支援センターとは個別の相談・助言を得るなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度身体拘束等適正化委員会を開催し、身体拘束等の個人ワークや研修内容を話し合い、頻度の多い言葉かけの具体的な行為を挙げて常に振り返りの機会になるよう取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回開催し、言葉かけなど具体的な事例について内部研修や勉強会を行って、身体拘束をしないケアに努めている。夜間は事故防止のためマットと赤外線を用いた見守りを行い、日中は持ち運べるセンサーを利用し、職員と利用者の活動場所に合わせて設置し見守りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化委員会を3ヶ月に一度開催し、内部研修を設けて虐待の防止を目指している。		

グッドケア・大通西（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多くの職員は詳しく学ぶ機会はないが、ある入居者様は後見人制度を利用しているので、その必要性を理解していき研修の機会があれば活用できるよう取り組んでいきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去や法改正による同意書を得る場合は、書面の内容の十分な説明を行い、理解や納得をいただいたうえで進めていくように留意している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は殆ど家族様との面会や運営推進会議などの直接意見を表せる機会はない中でも、往診後の報告する機会などに意見や要望がないか確認を取るよう取り組んでいる。	日常の会話、家族からの情報などから利用者の意見・要望の把握に努め、家族には毎月「グッドケア通信」で利用者の生活の様子などを写真で知らせ、家族来訪時、電話連絡時に意見や要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や申し送り時に要望や意見を聞き取り、管理者は法人と確認しながら意見や提案を反映している。	職員の意見や提案は、日々の業務やミーティング時に聞いている。毎日の申し送りの際にも様々なことを受け止めている。経営側と各職員との人事考課による面談を年に2回行って意見、要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はGH部門統括者より管理者・職員の勤務状況について報告を受けて業務内容も含めて的確な指示や判断を行い、業務など職場環境の改善に取り組みやりがいにつながるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人一人のケアの実際と力量を把握している。研修の機会は少ないが次年度は研修を受ける機会を設けケアに生かせるよう取り組みたいです。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社グループ・同一区内のグループでの交流の機会を計画したり、他事業所の取り組みを参考にしてサービス向上につながるよう取り組みたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様・外部サービス提供担当者との面談を密に行い、最適なサービスが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の対話を重視し、ご意向に沿ったサービスを展開でき、ご納得の上で利用頂ける様努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談の時点から何を必要としているか伺い、GHでの生活が適しているか情報の提供、要望の確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の出来る事を見つけ、日々の暮らしの中で関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の現状をしっかりと伝える事で、誤解や認識のズレを防ぎ、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との関係継続が図れるように、面会が困難な時期であっても、広報誌や電話で日々の様子やエピソードを伝えていくよう務めている。	コロナ禍の中、家族との面会は事前予約して各居室で10～15分行っている。(2022. 1月からは全面禁止)、全利用者が月1回の訪問理美容を利用している。公園を散歩するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々により生活リズムにズレはあるが、食事など一同が介する時間は毎日あり、お誕生日会や行事に関わる機会を持つ中で会話が出来ていて、今後も支え合えるような支援に努めていきます。		

グッドケア・大通西(すずらん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられ退去される方の葬儀等には参列できないが供花を贈ったり、退去されるまでの間は寄り添える関係性を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の過ごし方や暮らしを記録し家族様の意向や要望の把握に努め、毎月今必要な支援の話し合いを行っている。	日々の会話、表情、家族の情報などから思いや意向の把握に努め、申し送りノートで職員全体で共有して希望や意向に添うように努めている。困難な場合は、本人本位になるよう努めている。担当制のため、日々の変化に気づきやすい。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様のお話しの中からこれまでの経緯等の情報を聞き情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活体系を理解し本人の状態や様子を見て出来る限り今まで通りの生活を送れるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態や様子を見て変化や異変がないか職員、管理者、ケアマネージャーらと検討し家族様との連絡の中で意向や要望を聞き介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を反映させ、毎月モニタリングを行い、サービス担当者会議で職員の意見、主治医や看護師からのアドバイスを反映させ、短期6ヶ月、長期1年で介護計画を作成して利用者、家族に説明し、確認を得ている。状況に変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の他にも細かな情報などはノート等に記載し情報共有を行っている。確認を行ったか確認印を押し全スタッフが周知できる様取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ過において合同の行事や交流機会はほとんど中止したりすることが多かったが、誕生日会や食事内容は出前を取り入れたりして日々の生活に少しでもメリハリを持たせるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その時々身体状況もあるが、大通公園の景観を觀賞され満喫できている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に二回、訪問診療を受けておりかかりつけ医に状態を報告し相談を行い、他にも訪問歯科や歯科衛生士などから口腔内の衛生指導などを受け心身の状態を維持、改善できる様支援を行っている。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診は基本的には家族が対応し、必要に応じて職員が対応している。月2回医師が訪れ、看護師が週1回巡回して利用者の健康管理を行っている。	

グッドケア・大通西(すずらん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の日常生活を観察して、変化があった時は早めに気づき訪問看護師に報告、指示を受けて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族様、入院した先の病院関係者、看護師などと連絡を取って状況を把握し、退院に向けて対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に本人、ご家族様に重度化した場合の終末期支援の説明をし理解を得ている。その後の状況変化があればその都度、医師とご家族の意向を確認し連携してきている。終末期の支援にもチームとして取り組めるよう準備していきたい。	入居時に、利用者・家族に、「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明し同意を得ている。重度化が認められた段階で家族、医師などと協議し、看取りなど希望に添えるよう支援している。看取りの経験があり、職員は看取り研修も受けており、内部での勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はマニュアルに沿って連絡を取れるよう、本人の状態の変化を予測し、適格な判断と早めの対応が出来る様に常に意識し心がけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	年2回、ビルに入居している事業所合同で、日中・夜間想定避難訓練を実施している。また、消防機材の点検を行っている。3日相当分の食料、水と懐中電灯、ガスコンロを備蓄している。	火災、地震など災害の種類に応じた、事業所内の安全なスペース、近隣の安全な場所、市指定の避難場所を指定し、事業所からの避難経路図の作成が求められる。又、冬季の災害に備え石油ストーブなどの備蓄を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った、言葉かけをしている。	トイレなどの言葉かけに気をつけて、希望者には同性介助を行うなど一人ひとりの気持ちを大切に、尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。個人情報にはスタッフルームの第三者の目にふれない場所にある書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を傾聴し、その人らしく生活できる様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムがあって、様子を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している。日々の身だしなみにも、清潔感を大切に支援している。		

グッドケア・大通西（すずらん館）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けは、入居者様の身体状況を理由として難しい。食事は、入居者様の好き嫌い及び咀嚼の状況等に合わせて、盛り付けや形態を変更している。ミキサー食も彩りを意識して、食材ごとにミキシングしている。	献立は法人の管理栄養士が作成し、食材も配送される。誕生日や行事食はその都度メニューを変更し、焼肉、寿司、サンドイッチ、ハンバーガー、ケーキなど利用者の希望に添ったメニューを取り入れたり、献立に春の彩りちらし寿司や菜の花お浸しを添え季節感を出して食事を楽しんでいる。利用者は能力に応じ食器拭きを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様全員の、水分摂取量及び食事を摂取時ごとに記録している。また、日々の変化を追えるようにまとめている。主治医との連携を図り、栄養強化を実施している方も数名いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の口腔状況に応じた口腔ケアを、毎食後個別に行っている。スポンジや口腔ケア用ティッシュも使用する。義歯の方は洗浄剤を使用し、衛生を保っている。また、訪問歯科・口腔衛生士を利用している方も数名いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、排泄記録を確認し、定期的に入居者様へトイレ誘導のお声がけを行っている。（おむつ使用未使用に関わらず、身体状況でトイレ排泄が可能の方）夜間は、可能な方は時間ごとにトイレ誘導を行い、排泄の自立支援をしている。	排泄チェック表に基づき、表情や態度などから把握し、適時にさりげなくトイレに誘導し、排泄の自立に努めている。トイレ前にはロールカーテンを設置し、プライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト等の乳製品の取り入れ、野菜メニューの取り入れ、適度な油分の摂取、水分の適宜摂取、体操の実施で便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日に入浴可能な人数はある程度限られてしまうが、入居者様個々のご希望に応じた入浴ができるよう支援している。	週2回の入浴ができるように支援している。1人ずつお湯は入れ替え清掃し、好きな入浴剤を使用して会話を楽しんでいる。希望者には同性介助を心がけつつ利用者からの力強さも安心などの希望にも耳を傾けている。入浴を好まない利用者には声かけの方法を変えたり、別日に入浴してもらうなどで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の生活ペースに合わせて、リビングでの休息、自室での休息を支援している。夜間睡眠に響くような過度な休息は、現在のところはない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の心身状況に応じて、主治医と連携し検討を行いながら、良い状態を保つよう努めている。また、薬局からの処方箋等は、全スタッフがすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の今現在の能力が引き出せるよう様支援を行っている。毎日の食事やおやつ提供は日々の楽しみとして喜ばれていると感じる。イベント時の特別な食事やケーキ等も好評である。		

グッドケア・大通西(すずらん館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出かける機会はないが、天気の良い日には散歩(車いすを利用)をしながら花々を觀賞したりしている。面会機会には玄関口にて感染対策をしながら対応したりしている。なじみの関係が途切れないう家族様にも協力してもらい支援していきたい。	コロナ禍と利用者の高齢化で外出は減る傾向にあるが、天気の良い日には大通公園の花を見ながらの散歩や日光欲など日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解は難しい状態であり、家族様、後見人の方が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍になり、電話での会話も重要になっていると感じている。ご家族様や本人が希望されたり、普段より発語が聞かれたときには、その都度電話をしたりするなど支援している。年賀状やお手紙は返すことは難しくなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間のリビングには季節やお誕生日に関連した飾りつけをしていて、眺めている様子もうかがえる。室温調整に配慮し、リビング内は狭いが車いすが移動しやすいよう、工夫している。トイレ誘導の際はロールカーテンを下ろすなど居心地よく過ごしていただけるよう工夫している。	居間・食堂は一体的で、温・湿度は適正に調整され、季節に合わせて、節句には手作りの雛が飾られ、七夕には短冊を飾るなど家庭的な雰囲気となっている。建物が大通公園に面しているため居間の大きな窓からは公園を行き交う人々、散歩する人、ベンチで休んでいる人、樹木や花などから季節の移り変わりを感じとることが出来る。利用者はテレビを見たり、新聞を読んだり、歌を歌うなど、思い思いにゆったりと和やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見慣れた顔が見えるような席の配置や車いすの方が安心していただける空間を作っている。ソファで新聞を読んだりする方もいて思い思いに使って頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や写真立てを置いたり、使い慣れたものを使用し安心安全に過ごせるよう、ご家族様と職員で工夫し居心地よく暮らせるよう居室内の配置にも配慮している。	居室入り口には利用者の名前と顔写真を貼って居室を分かりやすくしている。タンス、テレビなど使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、家族の写真やぬいぐるみを飾って、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口やトイレなど、本人が見てわかるように顔写真付きで表示している。常に事故がないよう環境整備し、危険防止に努めている。		